

業務改革集約からの アウトソース



アジェンダ

1. 単に仕事の移動ではない
2. データ化から始める
3. 仕事を集約し人に投資する

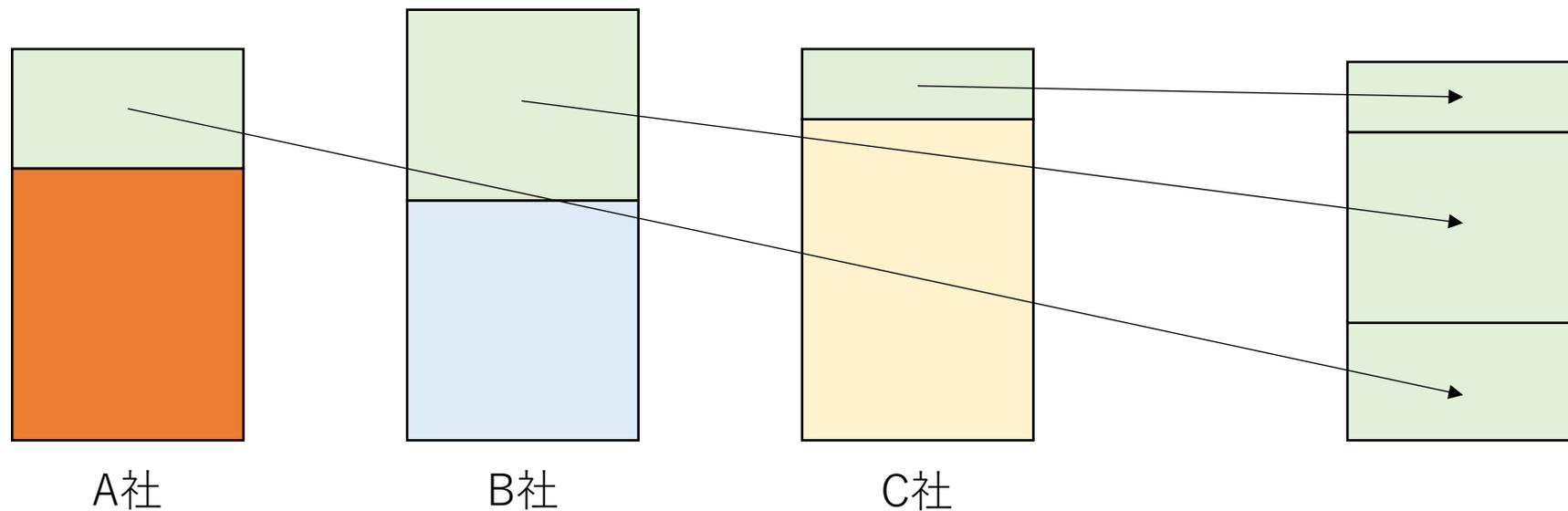


単に仕事の移動ではない

OSは外に仕事を出すことではない

■アウトソースを受ける際には、苦しくなるアウトソースと効率が上がるアウトソースがある。

■効率が上がるアウトソース



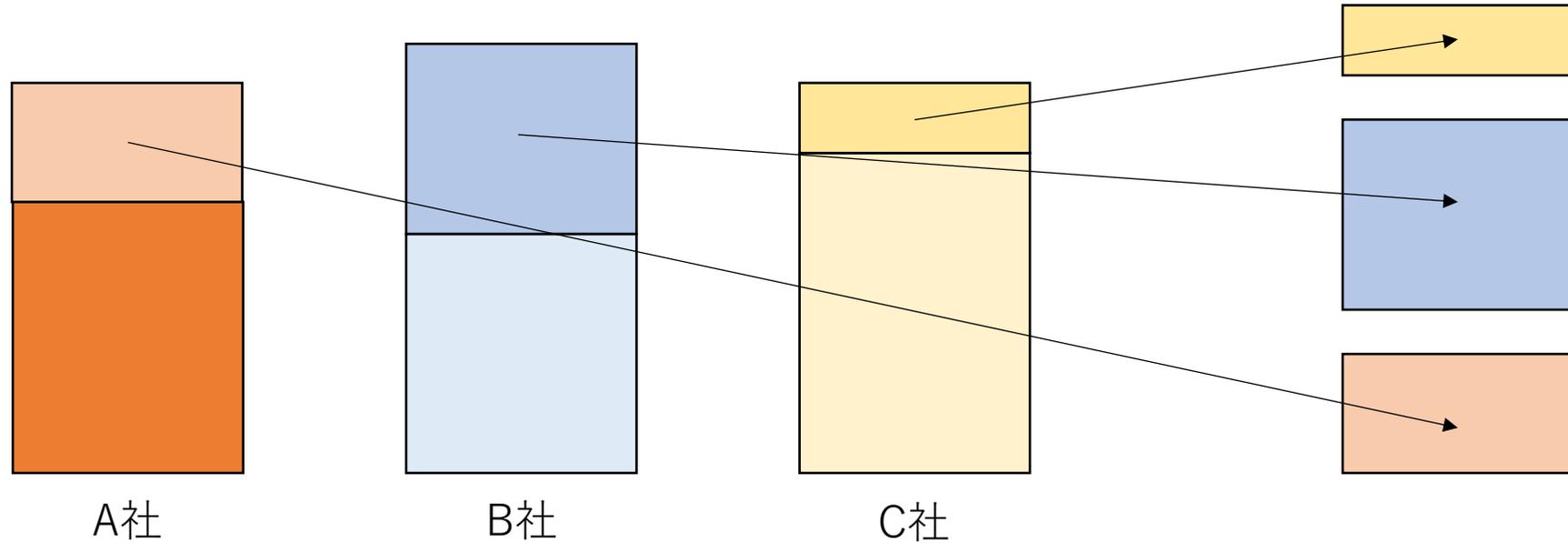
同じ業務を複数社から引き受けることで業務の専門性を高め効率を上げる

◆ 専門性を持った圧倒的な「速さ」「単価が下がる」等の付加価値で成り立つ



OSは外に仕事を出すことではない

■ 苦しくなるアウトソース



個別を覚える必要あり
年々変化する可能性あり

プロとなっても潰しが
効かない仕事である

- ◆ このパターンは、仕事が欲しいからと色々とするパターンであるが専門性がなく、面倒な仕事を外に委託したいパターンに陥る。単価は安いですが、専門業務としてノウハウがつかない。

アウトソーシングは業務改革とセット

- アウトソーシング業は、専門性を持った業者が多い。
- それは、その業者自体が業務改革後の専門性と効率の高い業務ができるため、他社の仕事を引き受けても利益が出るだけの体制が整えられているから。
- 例えば、給料計算業務。個別のルールでやっているのは時間がかかるし、1社のために覚えることが多すぎる
→ 業務改革して、統一してまとめる



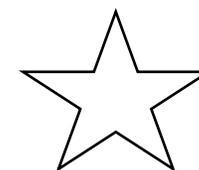
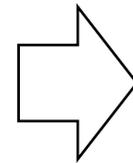
A社



B社



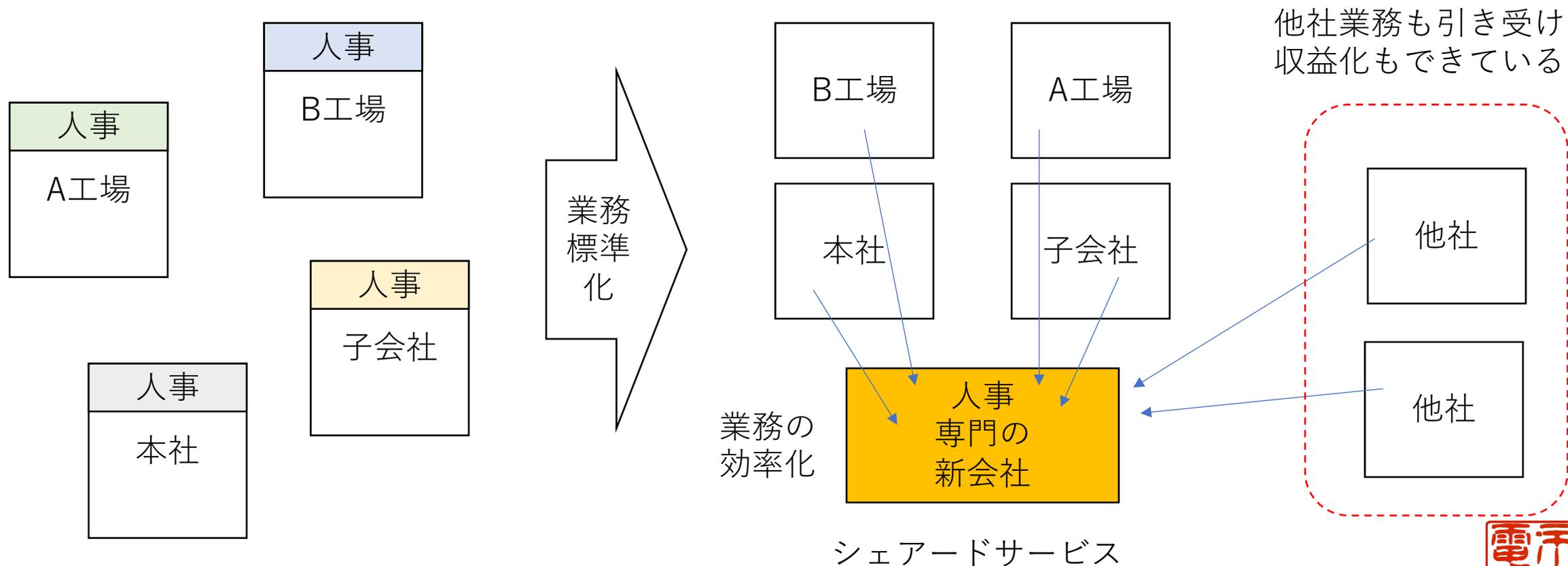
C社



標準化

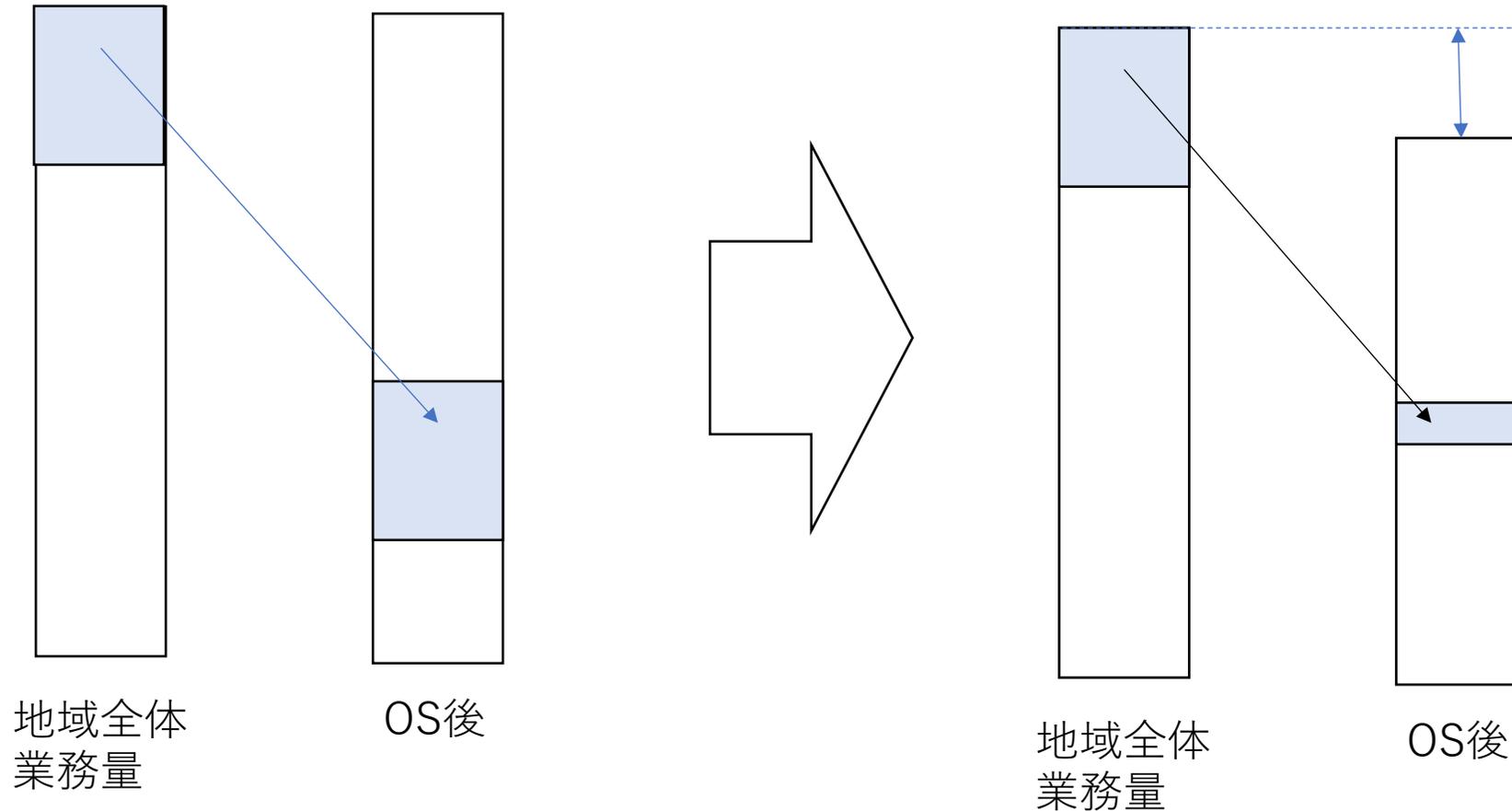
業務改革することで、できる人をふやす

- 例えば、古河電工の例。子会社や工場ごとに人事部門が存在し人事制度もバラバラ、転籍にも個別のシステムの処理が複雑な状態。



地域のサーキュラーエコノミー

■単なる業務量の移動では地域の価値はあがらない



地域の余力を
新サービスに回す

地域に何の価値を出す
ために、活動をするか

インターネットは距離を越える

- インターネットは距離を越える、つまり、都会から地域に仕事を移管するための方法である。
- 専門性と効率化ができればこそ、他の地域からの引き合いもできるようになる。
- 私の会社でも、美大系の学生さんたちにオンラインでデザインの仕事をシェアしたり（Design for Local）、自治体向けのコンサルティング・研修事業はシビックテック・ギルドという形でシェアしています。



シビックテックギルドとは

■ 方法論を覚える・進化させる

- ◆ 自治体変革PJ-DXのように、伴走型兼進化型の研修（実践）は覚えて、使ってカスタマイズしていく必要がある。場がないと、いつまでも使える人は増えない。

■ 地域ごとに地域事にする

- ◆ 地元で始めようと思った時に、実績がないとなかなか事業につながらない。だが、地域は地域の課題感・大事にしているものがあるので、それと業務を繋ぐ。

■ 仕事のシェア

- ◆ どのエリア/年にどのような仕事ができるのかわからない。
- ◆ 人を定着させるには必要な仕事をシェアして負荷分散が必要。

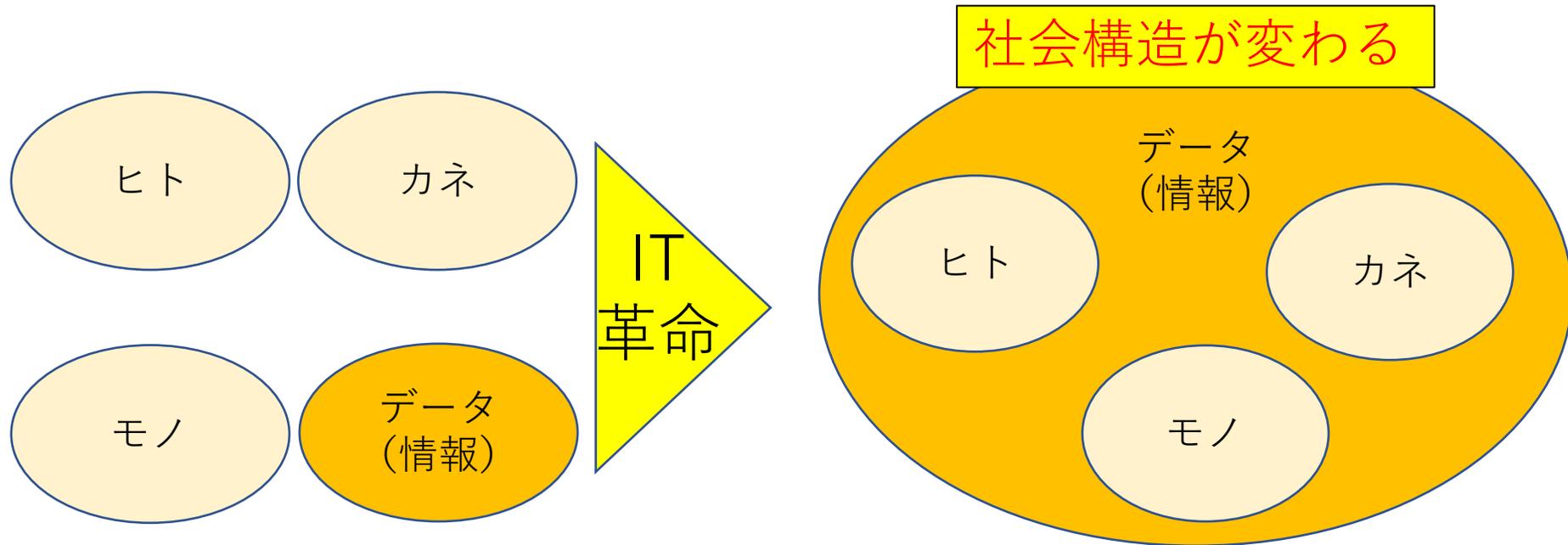


データ化から始める

世界最先端IT国家創造宣言 総論

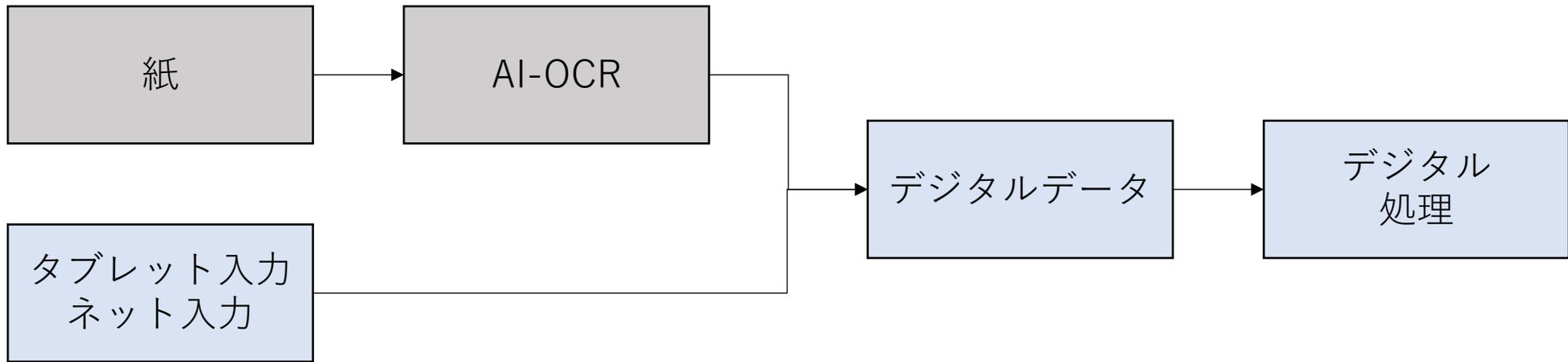
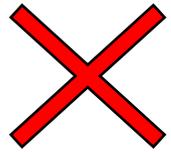
世界最先端
IT国家想像宣言

- 「ヒト・モノ・カネ・データの資源併存」
→ 「データの上で、ヒト・モノ・カネが生きる」時代へ



まずは、デジタルファースト

- 「デジタル」 to 「デジタル」 がこれからの基本



入り口から
デジタルデータ化する

- ◆ RPAもAIもデータがなければ使えない
- ◆ 業務プロセスやシステムの標準化・共通化されなければシステムにはならない



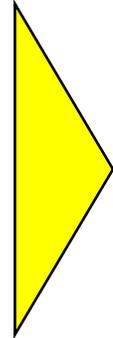
データ化

■まずは、デジタルデータになっていなければ、始まらない。

■東京都庁の例（5つのレス）

アナログデータ

- 1、ペーパーレス
- 2、FAXレス
- 3、タッチレス
(Web相談など)
- 4、ハンコレス
- 5、キャッシュレス



情報を作るときは
デジタルで！



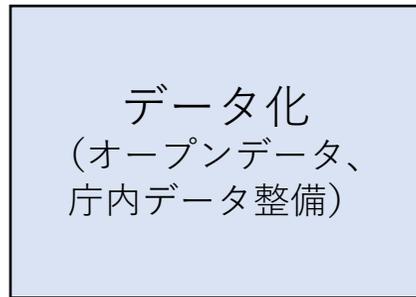
データ化、デジタル化、DXの順番

まずデータができ

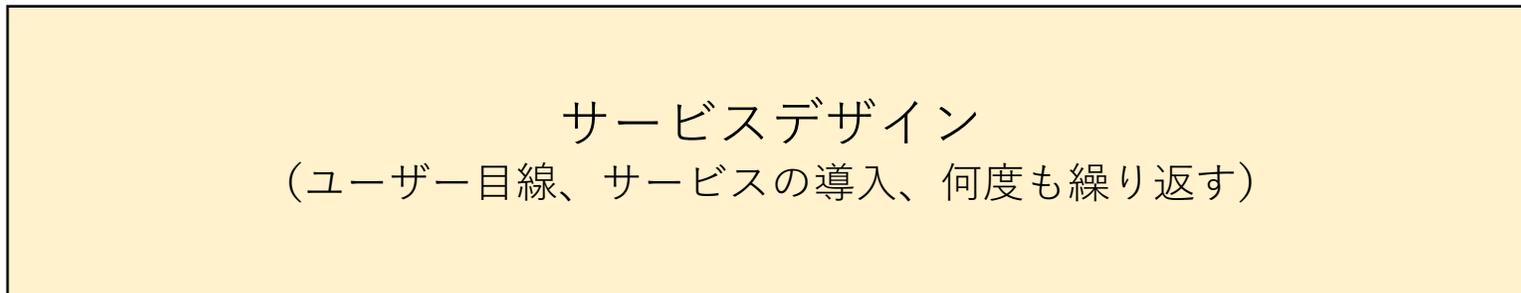
個別の仕組みが
デジタル化し

それぞれが繋がる

これにより
デジタルtoデジタルが
達成しDXができあがる



課題や状況に合わせて
変化し続け対応できる
自治体・地域となる。



さて、データ作るのはいいけれど

データマネジメントやってる？



データマネジメント

- そこで、必要となるのがデータマネジメントの知識です。
- みなさん、文章やドキュメントには、文書規定があるのにデータにはないのはおかしいと思いませんか？
- データマネジメントは、いくつかの観点でデータを扱う。

戦略策定/計画

個別バラバラにならないように、運用体制・方針やルールを決めていく、対象範囲も計画していく

データ設計

それぞれで使うデータってどんなデータなの？データ間の関係はどうなっているの？

データ蓄積の仕組み構築・維持

誰が、どこに、どのようなデータを、どんなタイミングで登録する？

データ利用

誰が、いつ、どのツールで、どのデータを利用する？
誰は見ている？更新している？



これがないと何が起こるか？

- 前任者が作ったマスターデータを更新したいがどのように作ったのかわからない。
- 他の部門のデータを使ってノーコードツールを利用しているがいつまでもマスターが更新されないため、不整合が起こる。
- 大元の情報は更新されているはずだが、マスターの更新ルールがないため、適当な時期に更新してしまう。
- その時の行き当たりばったりのツールが出来上がってメンテナンスができなくなってしまう。
- データ作成の担当者が決まっていないため、うやむやになる。
- などなど、触れないアクセス問題、マクロ問題と同じことが起こる。



戦略なきところにDXなどない。

- デジタルファーストが基本、自治体によるデータ化のアウトソースは一時的なことになる可能性がある
- データマネジメントできていますか、これとセットでないと戦略的には使えない

→ これ、コンサルティングや業務全体のことを考えなければいけない



仕事を集約し人に投資する

デジタル原則

デジタル社会の実現に向けた重点計画より

■ デジタル社会を構築する上で必要となる、デジタル改革・規制改革・行政改革に通底すべき、デジタル社会の実現に向けた構造改革の5原則

No.	原則	内容
1	デジタル完結・自動化原則	書面、目視、常駐、実地参加等を義務付ける手続・業務について、デジタル処理での完結、機械での自動化を基本とし、行政内部も含めエンドツーエンドでのデジタル対応を実現すること。国・地方公共団体を挙げてデジタルシフトへの組織文化作りと具体的対応を進めること。
2	アジャイルガバナンス原則	一律かつ硬直的な事前規制ではなく、リスクベースで性能等を規定して達成に向けた民間の創意工夫を尊重するとともに、データに基づくEBPMを徹底し、機動的・柔軟で継続的な改善を可能とすること。データを活用して政策の点検と見直しをスピーディに繰り返す、機動的な政策形成を可能とすること。
3	官民連携原則	公共サービスを提供する際に民間企業のUI・UXを活用するなど、ユーザー目線で、ベンチャーなど民間の力を最大化する新たな官民連携を可能とすること。
4	相互運用性確保原則	官民で適切にデータを共有し、世界最高水準のサービスを楽しむよう、国・地方公共団体や準公共といった主体・分野間のばらつきを解消し、システム間の相互運用性を確保すること。
5	共通基盤利用原則	ID、ベース・レジストリ等は、国・地方公共団体や準公共といった主体・分野ごとの縦割りで独自仕様のシステムを構築するのではなく、官民で広くデジタル共通基盤を利用するとともに、調達仕様の標準化・共通化を進めること。



自治体戦略2040構想研究報告会

- 2040年までに自治体職員は半減する。スマート自治体への転換が必要。
- AIやロボティクス、デジタル技術を使って処理できる事務業務は自動処理に転換していく。
- 現在の職員の半分でも、本来の自治体を実施すべき行政機能を発揮できる仕組みを作る。

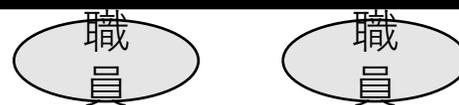
【2022年】

業務



【2040年にどちらを選ぶ？】

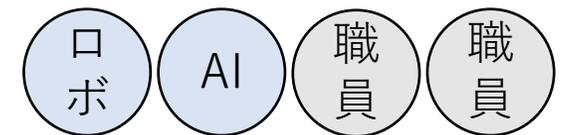
業務



or

デジタル

業務



日本語の問題

- 日本国内で、データ入力やアウトソースが回ってくる理由の1つは「日本語」という障壁があるから。
 - この障壁は、技術革新によりどんどん小さくなっていく。
 - 例えば、地図の業界では25年以上も前から単価の安い国（ネパールなど）に入力の委託をしている。
 - 自動車部品の会社も、フィリピンやタイなど生産地に近く単価の安い国で昔から入力をしている。
- 専門性がないと、仕事の取り合いになる。
データでやり取りするのは距離の近い・遠いは関係ないから。



年度会計職員の問題

- 自治体の年度会計職員が対応している仕事のうち、10年後に同じことやっている仕事はどれだけありますか？
 - ◆入札参加資格の封筒を開けて、必要書類があるかを数ヶ月確認して入力する→ 電子申請可能となった段階で不要
 - ◆会計年度職員の勤怠の計算→ 人事労務のシステムを共通化したら不要
 - ◆照会回答業務→ データベース化、WF化したら激減する
- デジタルファースト後に、データ化のアウトソースはどれだけあるか見据えないと回らなくなる。



業務改革の勧め

- 業務改善の標準化ではなく、業務改革をして標準化する。
 - ◆ 業務改善は、今ある業務の悪い点を直すこと
ルールの標準化、項目の整理、手順の整理など
 - ◆ 業務改革は、今の業務を否定して作り直すこと
業務フローを抜本的に変える
- どちらが、競争力があるかと言えば「業務改革」である。



人にスキルをつけること

- 仕事を集約する（コンサルティング・効率化）
- 人にスキルをつける（リスキリング）

- これにより、他地域よりも競争力のある産業として引き受ける対象がエリアが増える。人は圧倒的に便利なものがある場合、地域よりも利便性をとる。
（アマゾン＞本屋、アマゾンプライム＞ツタヤ）



